

## 飯山北コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和6年7月2日（火） 午後2時00分～3時30分

場 所：飯山北コミュニティセンター

参加者：16名

市出席者：市長、地域担当職員 平尾（産業観光課）、地域担当職員 田畑（包括支援センター）塩田（秘書課）、森本（秘書課）

### 1. あいさつ

#### （事務局長）

ただいまから、令和6年度みんなでまちづくり市長と語る会を開催する。開会に先立ち、三好会長からご挨拶を申し上げます。

#### （会長）

梅雨も最盛期に入り、鬱陶しい日が続いているが、健康管理には十分に気をつけていただきたいと思う。

今日は、「令和6年度みんなでまちづくり。市長と語る会」ということでご案内を申し上げます。大変お忙しいところお集まりをいただき、感謝申し上げます。市長には公務のお忙しい中、時間を割いていただき、また、「豊かで暮らしやすいまち丸亀」づくりにも、ご尽力をいただいておりますことを心より感謝を申し上げます。それに加えて、令和元年度からコミュニティセンターの老朽化に伴う改築をお願いしていたが、今年の6月には工事着工の運びになり、地域を代表して市長に心より御礼を申し上げます。

飯山北コミュニティは、今年の6月に第4次はんざん桃源郷の里まちづくり計画を作成し、地域の誰もが安全安心に、豊かな生活が送れるようなコミュニティ活動を進めていくということで、これから先5年間を見込んで、国際交流やDX事業、これまでコミュニティセンターに調理実習室がなかったので調理実習についても取り組んでいこうということ盛り込んだまちづくり計画を作成している。

来年には新しいコミュニティセンターが完成予定であるので、これからもコミュニティ活動において、これまで以上に地域の活動拠点として活用をさせていただきたいと思っている。市長には、これからも地域のまちづくりのために、ご理解とご協力をお願い申し上げます、最初のご挨拶とさせていただきます。

#### （市長）

飯山北コミュニティの皆様方には、日頃から丸亀市政の運営に当たり、ご理解とご協力とご支援をいただき、心から感謝を申し上げます。私は市長をさせていただき、今4年目である。任期が4年なので後10ヶ月ほど任期があるが、引き続き同様に一生懸命取り組んでいく。

今日は忌憚のない意見をたくさん聞いて、また質問については私が答えられることは答

えるということなので、よろしくお願い申し上げます。

## 2. 意見交換

### (事務局長)

#### 【出席者自己紹介】

今回のテーマは「まちづくりは人づくり」となっている。最初に市長より今年度の重点プロジェクトについて説明をいただき、その後、意見交換等させていただく。

### (市長)

市長になって3年、元気なまちづくりに取り組むことを常々言っている。

今、日本の国自体が人口減少時代に完全に突入しており、特に四国は人口が極端に減ってきている。この辺の中讃地区、丸亀も予定よりも上回ったスピードで減っているのが現状である。しかしながら、どこかで横ばいになって上がっていくことが必ず来るので、それまで私たちが頑張って色々なことに取り組んでいけば、それが元気なまちづくりになると思っている。

それには、やはり人だと考えている。将来を見据え、人づくりの推進のため市民が主体となった協働のまちづくりを進めたいと思っている。そこで、今年4月から協働推進部を創設した。

今年の予算で、自治会1軒あたり300円の補助金を倍にして、1軒で600円にした。もう1つは、自治会長の手当を若干ではあるが増額した。自治会の活動に少しでも寄与できればという思いで増やした。

人がまちづくりの土台となる。市民主体の持続可能なまちづくりの実現、官民協働、誰もがまちづくりに参画できる環境を作り持続可能な丸亀市を共創して作っていきたい。

能登で大きな地震が起きた。丸亀市は1月5日から7月1日まで毎日3人、延べ140人の人間が七尾市の被災地に入ってお手伝いし七尾市から非常に喜ばれた。それにプラスして、うどんの炊き出しも行った。4月からは、土木の資格持つ職員1人を1年間、派遣をしている。今後は丸亀にそれをどう生かしていくかということを考えているが、能登の教訓として、大規模災害への備えには自治会や自主防災組織とが重要だと改めて分かった。

これは東日本大震災、阪神淡路大震災もそうであるが、地域住民の助け合いが一番命を救うことに繋がっており重要であると再認識をしている。地域意識の一層の高まりが、これから住みやすいまちにつながると考えている。丸亀市としても、地域の皆様のご協力のもと、地域を中心に元気で活力あるまちづくりに向けた取り組みをしっかりと進めてまいりたい。これが基本的な人づくりである。

それともう1つ子ども教育もある。今年の春から「人づくり、石垣プロジェクト」を行っている。これは丸亀市独自で予算を組み、約1億3000万かけて、小中学校の講師の先生、支援員、補助員、その他にはスクールソーシャルワーカー等、色々な相談業務をする人たちも含めて全部で51名を新たに雇う予定にしている。お城は6年前の7月7日に崩れたが、

その石垣を1つずつ積み上げるといことになぞらえて、「人づくり石垣プロジェクト」という名前を付け、学校関係でもこのプロジェクトを5年間行うことになった。

教育長をはじめ先生方、教育委員会の人たちにもご尽力いただき、退職した先生、教員の資格がない方にもお願いし51名の方を雇うことができる予定である。

コロナの3年と4ヶ月の間に、学校が臨時休校をし、殺伐としたコロナ禍の中で、行動制限が解けた後も不登校の子どもたちがかなり多く出ている。日本全国そうであるが、不登校、また学校がコロナ禍でかなり休んだことにより、おのずと学力が下がったと推測できる。子どもたちのために、学校の先生方が少しでも多く子供たちと向き合う時間を増やすにはこの方法がいいのではないかとということになった。これも人づくりであり、まず5年間やるが、5年といわずに続けていくようにしていきたい。

元気なまちづくりには人だということを説明させていただいたが、これからも元気なまちづくりに引き続き取り組んでいくので、よろしく願います。

#### (事務局長)

元気なまちづくりは人ということ、協働のまちということで協働推進部を設置して、自治会への手当等も増やす。震災の教訓から地域住民の助け合いが大切だということも言っていた。また一番は人づくり石垣プロジェクトということで、教育関係に大きな投資をしていただいているお話もいただいた。

今のお話を聞きながら何かお聞きしたいこと等あれば、ここからは意見交換という形で自由に発言していただけたらと思う。

#### (コミュニティ1)

防災士をやっている。5年かけて51人の先生に一体何をさせるのか。具体的なことは何なのか？

#### (市長)

講師の先生方は授業全般をする。特に小学校には障がいのある子どもなど、1人で学習するのが難しい子どもがいるが、支援員は免許を持ち、そういった子どもに付いて支援する人。補助員は免許を持っていないが子供たちに付いて補助をする人。支援員と補助員がいれば、担任、副担任の先生は全員の生徒と相対して授業もでき、子どもも学校で過ごすことができる。講師の先生は、担任の先生と同じようなことをしてもらえる。

その他には、スクールソーシャルワーカーという学校関係で問題やトラブル起こった時に、学校の外の人間として相談を受けて保護者とのやり取りなどを行う。

その他、ALTといわれる英会話の外国の先生がいる。教育長が力を入れている。今は小学校から英語をやっているが、英語は短時間でも学力が伸びると言われている。まず英語教育で自信を持たせて、ほかの教科の勉強にも取り組んでいけるようにする。そのきっかけには英語が一番いいということで、外国人の先生も雇った。全部で51名。他の町では真似できないことを丸亀市としてやっっていこうと思っている。

#### (コミュニティ1)

1つの学校に何人という人数は大体決まっているのか。

(市長)

その学校によって状況が違う。問題のある生徒、障がいのある生徒、各学校で人数も違うので、各学校に応じてバランスよく行ってもらう。それでも足りない場合は、その先生に異動をしてもらいながら、その時にに応じてバランスよく公平にやっていくように聞いている。

(コミュニティ 2)

お出かけ便運転の当番であるので、すぐにお迎えに行かなければいけない。早めに質問させていただく。市長のお話しに沿っての質問ではないが、日頃から疑問に感じている3点ほど質問させていただく。

まず1点目が、いろいろな相談ダイヤルがあるが、子供のいじめの相談ダイヤルや、応急処置のビデオ電話など相当ある。私たちのときは119番か110番しかなかったが、それ以外に今は相談ダイヤルや緊急ダイヤルがある。ただそれを知っているかというとな分全部知らないと思う。それを何とか市民に知らせたい。

知らせるためにパンフレットを作ったり、封書を各家庭に送ったのではお金がかかる。お金をかけずに皆さんに周知ができるのは、広報紙を使うことである。広報紙の裏面に載せるのであれば費用ゼロである。それをぜひ実行できないか。

もう1点がマイナンバーカード。12月2日から今の段階では健康保険証はマイナンバーカードになるということで、マイナンバーカードの促進を行っている。ただ、5年すると免許証と一緒に書き換えがある。その周知を誰がするのか。いちいち通知が来るのか。ただ、通知が来ても暗証番号を皆さん覚えているのか。それとどこで更新ができるか。写真を撮らなければいけないがどうするのか、政府も何も言っていない。

もうマイナンバーカードができて9年くらいになるので、一番初めに作った人に通知が来たと言っていた。その辺が将来的に、今は80%超えて皆さんお持ちなので、すごく混乱すると思うがそのあたりの対策をどうするか。

もう1点、空き家対策に国が今力を入れている。一般の民家は分かるが、私が聞きたいのは、市の持ち物、県の持ち物、国の持ち物の管理。極端に言えば、県営住宅は外壁のコンクリートが落ちて、鉄筋がまる出しのところもある。あそこはもう新たに人を入れられない、なくすということであるが、1人でもいたらつぶせない。それは誰に言ったらいいのか。

もう1点、飯山高校の農業科がなくなり、飯野山の麓にある飯山高校実習地の管理を誰がするのか。今はほったらかし。雨が降ったらその雨水が落ち葉で詰まって溢れているが、その被害が私の家にくる。

飯山高校の下の水路は掃除できるが、飯山高校の土地まで私はできない。その辺の管理をどうするか。飯山高校の建物の下に、雑草が生えるため10年ぐらい前にシートをかぶせた。そのシートがめくれてきたので学校にうちの自治会長が言うと、「うちが公的にはできません。どうしても結構です。」という回答であった。ただ「どうしても結構」ということ

は、それを外したら誰も草刈りはしてくれない。シートを直そうと見積もりをとると 40 万円近くした。

そういった公共的な施設の管理は誰がするのか。一般の民家であれば、それに対して更地にするようになど国、県、市も指導をする。ただ公共的な施設は誰がするのか。その辺がよく分からないので、何かの機会に思い出してまたよろしくお願ひしたいと思う。

(市長)

お出かけ便の運転ありがとうございます。

まず相談ダイヤルついて、相談ダイヤルの周知を広報紙の裏面に、早速そのようにできないか指示しようと思う。その方向で検討をしていく。

そしてマイナンバーカードについて、私も 1 回だけ書き換えをしたが暗証番号が分からず新たに取り換えるということをし、またその番号も忘れていた。

丸亀市としては特別に人を増やして対応しているが、私たち末端の地方の自治体も本当に右往左往しながらマイナンバーカードはやってきたのが実情である。

私は市長になって 3 年、マイナンバーカードはすでに始まっていたが、丸亀市は丁寧に行っている。もちろん十分でないところもあるかもしれないが、職員は丁寧にやってくれているという思いである。今後、国からの情報等を上手く周知できるようにしっかり取り組んでいく。

空き家対策について、まず市の建物は、私が知っている限りではきちんと管理をしていると思っている。もしあれば、すぐにでも対応するようにしたい。

県営住宅は全部が空家になっているのか。丸亀市でも市営住宅で一部住んでいるところはそのまま残っている。周りに迷惑かけてはいないが、順次建て替えをしていっている。県の今日言われた部分は、市の方からも県に問い合わせる。

(コミュニティ 2)

機会がありましたらよろしくお願ひする。飯山高校の実習地の管理の問題も。

(市長)

飯山高校の実習地の管理について、これは本当に飯山高校がしてくれないのか。これは県の教育委員会に。

(コミュニティ 2)

飯野山の裾の方にあり、今は使っていない県の広い土地が荒れている。

(市長)

これは県に困っていると問い合わせをする。県営住宅と飯山高校の実習地について、確認を取ってきちんと回答する。

(コミュニティ 2)

溝があって、幅が 400、高さが 150、そこに木が生えている。水路に沿って根が生えている。

(市長)

ご尽力に感謝申し上げます。

### (コミュニティ 3)

将来的に空家が増えてくるが、農家が土地を手放す。家に後継ぎがいなくて、法人で土地をそのまま買ってくださという話が、すでに私の集落で 2 件出てきている。これからも増えてくる可能性がある。農業法人は、困っている土地を預かることを考えているが、買い取るまでは想定していなかった。

この問題については、色々な問題が絡んでくるので、一度自治会でも話し合いをする準備をしているが、私たちは解決策がなかなか見つからない。私の集落だけではなくて飯山町も含めて、そういう事例が随分と出てくるのではないかと思う。そういうことを踏まえて、何か対策、いい方法があればと思っている。

特に私のところ、久米氏という集落は、丸亀市の中でも中山間地である。水系が 5 つある。小さい田んぼの重なりという、典型的な中山間地であり、大枠ではそういうことにはならない地域であるということをお知らせしておく。特に考えていただきたい。私たちもどういうことができるかは、一生懸命考えていきたいと思う。

### (市長)

空家については、今後、一番の大問題であり、職員はこれにとりかかっている。丸亀は三千数百戸の空家があると言われている。しかしながら、実質の空家はもっとあると思っている。

農地は法人に任せるとしても家自体に後継ぎがない。私の自治会も、農家が 50 件超えていたのがどんどん減って、30 数件になった。家も空家が増えてきているのが現状である。息子や娘が市外または県外に出て、そちらに家を構えたら、そのあとどうするか市としてどういう方向性でどういう対応していくか検討していく。空家対策は、丸亀市として、これから一番大きな問題になってくることは間違いなく、しっかりと取り組んでいく。

### (コミュニティ 1)

3 つある。1 つは、能登の地震を受けて耐震診断と耐震補強を追加したと思うが、非課税世帯だけであるので、もう少し予算を付けて全部の世帯を対象にしてくれたらいい。

それと家に 1 人 1 個ずつ防災リュックとヘルメット購入を配ったらどうか。各世帯ではなく 1 人 1 個。それがあつたら、1 人でも挟まれて亡くなる人が減ると思う。

私は消防団に入っているが、大学生や専門学校生、外国人も消防団に入ることができるので、そのチラシを各世帯や専門学校に配布してもらって、啓発活動で入ってもらうように誘導してもらえると、消防団もありがたい。

### (市長)

まず耐震補強について、今は耐震をするのに 100 万円出るようにしている。それを今回、プラス 50 万円で非課税世帯につけた。本当は全部つけたいが、大体平均したら耐震工事は約 150~160 万円。そこで 100 万円をつけると、現役で働いているご家庭であれば、あと 50~60 万円は自分で頑張ってお出しただけ。これは可能だと考えた。

非課税世帯、特にシニアになって仕事を引退された家を想像すると、耐震診断をしてから耐震の工事をする事になった場合、年をとり、家も古く、今から家にお金を使うのはやめておこうと判断する人が多い。また色々な事情があり仕事ができている方も、古い家が多い。そこで非課税世帯の方々に 50 万円をプラスして耐震をしてもらうためにつけた。

しかしながら、今日言われたことは十分わかる。給料が上がっていないので、現役の方でもやはり少しついた方がいいのは決まっている。この間、議会で議決いただいたところなので、今後プラスでそれは考えていきたい。

まずは耐震診断をやってもらおうと思っている。耐震診断は 13 万 6000 円をつけたが、耐震診断するのにほぼ満額でできる。これをまずやってもらい、耐震性がないと言われたところは、行政からも耐震工事を勧めようと考えている。この 6 月の予算がオーバーしたら、補正をしたいと考えている。

リュックとヘルメットについては、十分検討させていただく。子供と高齢者のヘルメットは、2000 円を補助する形をとった。

消防団の大学生専門学校生については、どういう形をとったらいいか、消防の方とも相談してみる。

#### (コミュニティ 4)

実は冒頭に市長から非常に大きい課題をお話いただいたが、私も尋ねたいと思っていた人口減少問題である。皆さんも新聞を見て知っていると思うが、4 月 25 日の人口戦略会議で、香川県は 4 市町が消滅可能性があるとのことで、これは大きく報道され、関心を持って読んだ。丸亀市は減少率が県下で最低であったということで、私は安堵した。人口戦略会議で民間組織が発表した。行政改革により、自治体は全国で 1727。私がお世話になっていたときは 3230 だったので約半分になった。香川県でも 5 市 38 町から 8 市 9 町へ。全国で 744 の市町村が消滅可能性があるとのこと。

香川県の数字は、一番に東かがわ市が 61.0、さぬき市が 52.7、土庄町が 55.1、琴平町 60。丸亀市は 25.7、高松市が 26.1。内容は 2020 年から 2050 年、30 年間で子供を生まれる可能性の 20 代から 30 代の方々が減少しているという数字。これは大きい行政課題であるし、全ての方が心配している。

関連して、6 月議会の人口減少問題で市長がどう対応されるか一般質問で、市長は子育て世代向けに環境整備、また移住促進によって前年対比が 2.1%の伸びで 188 増加をしたということで、市の重点施策は一定の成果を得たと新聞に載っていた。これも非常にいいことだと感心し、今後市長がますます市政の課題として、大いに発展させていただくように一市民として願う。

7 月の広報紙が先日届いた。一番に感心したのは、表紙の大相撲丸亀場所。4 名の笑顔の表紙はものすごくいい宣伝で、市民も非常に喜んでいて。毎月関心を持って読ませていただいているが、これは非常に素晴らしい表紙である。

関連して、城泊のことも全国的にも PR して、どの程度の申し込みがあったか知らないが、

3日間一般に公開することや様々な写真が掲載されていて、市民も非常に関心を持っていたと思うので非常に良かったと思う。明るいことで一番良かった。

これからも市の発展のため、ますますご尽力いただきたいと思う。

#### (市長)

まず人口減少について、丸亀もここ4、5年のことを言うと、生まれる子供が少し前までは1000人を超えていたが、それが1000人を切った。しばらくしたら900人を切って、今は800人ちょっとである。令和5年度に生まれたのが約800人。亡くなられた方は大体1200から1400人ぐらいで約400人は減っていつている。これは香川県の中では減り方が一番少ない。

丸亀市は昨年度の給食費の無償化、医療費18歳までの無償化、その他の学校関係、今日も話したような人づくりに力を入れている。喜ばれた施策として、国のお金であるが丸亀で採れたお米を22歳までに全部送ったこと、ガソリン券を全世帯に5000円ずつ送付したこと、水道の基本料金900円を4ヶ月間無料がある。

そういった部分が浸透して、丸亀市に流入、引っ越しをしてきている人が多い。仕事の関係で来ている人が一番多いが、それとは別に、善通寺市、琴平町、まんのう町、坂出市から、住むなら丸亀市、家を建てるなら丸亀市という方がいる。まんのう町であれば家を建てるに200万くれるのに、それでも丸亀市にという方が現実にはいる。丸亀市だけ人口は横ばいになっているが、これは本当は望ましくない。中讃地区近隣全部と一緒に良くなればいけないということを、私は常々言っており、中讃全体でよりよいまちづくりをしていかなくていけないと思っている。

また、市長になってから、敬老祝い金を復活させ、子育て世代だけではなくそちらにも取り組んでいる。

若い人は約70%が高校卒業後、県外、市外に出る。その方々が帰ってきてくれるかどうか。若い女性が東京や名古屋や大阪などの都会に行った場合、帰ってくるのは約20%~30%。若い男性は、半分強が帰ってきている。これは確実な数字ではないが、若い人々が帰ってきてくれるような魅力のあるまちづくりをやっていかなくてはいけない。

給食費の無償化、医療費18歳までの無償化給食費をずっと言われていたが、議員の時から思っていて財源ができたのですぐ実行した。今年の春に、奨学金返還を丸亀市が年間8万円、それを10年間するので80万円。これは私の子供たちのときにあつたらと思ったが、年8万でもものすごく助かる。学校に行つて丸亀へ帰ってくる、もちろんずっと住んでいてもいい。丸亀に住んでいたら奨学金を丸亀市が補填するというものを作つた。

このような色々な取り組みを行っているが、やはり若い女性の方、出て行った人が帰つてこないというのが一番大きい。帰ってくるような、魅力あるまちを作つていこうと思う。

それと丸亀場所について、これは去年の9月か10月に琴勇輝さんが丸亀に帰つてきたとき、1回食事をしたが、その時に丸亀場所の話をして実現した。琴勇輝さんもものすごく喜んでた。ぜひ皆さん、見に来てください。

城泊について、オープニングセレモニーでは知事や国会議員を呼び大々的にして、マスコミもたくさん来てくれた。色々なニュースや何社もの新聞にも出ていた。

改めて言うと、2人で1泊126万5000円。それでも満足できるようなおもてなしと準備をしているので、またコマーシャルよろしく願い申し上げます。

1人だけ実際申し込みあり7月11日で決まっていたが、7月は暑いので涼しくなってからがいいとなった。10件の問い合わせがあり外国人が4件という状況で、私自身も早く宿泊者第1号ができればいいと思っている。

### 3. 質問票

#### (事務局長)

ご丁寧に様々な施策取り組み状況を報告いただき感謝申し上げます。時間が大分押してしまったので、まだお聞きしたいこともあると思うが、質問表に関してお答えしていただく時間はないと思う。この質問事項に関して何かあるか。

#### (市長)

簡単にお答えする。

一番の大東川の工事の進捗状況、国道438号バイパス線の早期完成要望について。大東川は私が市長になったときから県の方にも、県知事や県議会にも何回も言った。県議会議員の香川先生、川池先生にご尽力いただいて、まず大東川は進むようにはなったが、ここ最近まで具体的な返答がないというのが現状である。しかしながら、この工事は大東川だけでも令和9年度目標でやってもらいたいという要望はずっとしている。

ただそれがいつまでという案が、県は今日の時点でもはっきりとした返答はまだできないとのことであった。県は議会の方にも示して、県知事了承を得るので、なかなか具体的に発表できないのが実情だと思う。

それと438号線。438号線ができたおかげで、今は坂出から飯山町に買い物に来る方がたくさんいる。この438号線は県の答えで言うと、国もそうであるが、令和9年度に4車線で飯山町はできる予定である。

次のデジタル化推進のための財政支援について。市長になったときから、デジタル化はやっていこうと思っていた。世界に日本が遅れをとってきていると私は思っている。

丸亀市は市民課の受付、今はマイナンバーカードを持ってくると書かずに申請書が取れる。例えば印鑑証明を取ったり、戸籍謄本を取ったりするのに、今まで全部書いてもらっていたが、マイナンバーカードを機械にかざすとスタッフがボタンを押してくれるので、番号を待つ。書かない窓口、デジタル化である。

また、保育所の申し込みは携帯電話から申し込みができるシステムを丸亀は取っている。

この2つをやっているところは、知っている限りは地方自治体ではない。書かない窓口は去年からやっており保育所の受付もあり、デジタル化ができていると思う。

今の時点では、新規補助金の創設は難しいということであるが、デジタル化に取り組み

なければいけないので、今後は検討材料にさせていただきたいと思う。

それと大学、専門学校の誘致の考え方について。これはもちろん私が市長になる前、私も議員であったので大学誘致はしたいと思っていて、1つ良いところまでいったが、最後に上手くいかなかった。丸亀市は土地がない。

今まで候補地であったところだけで申し上げる。駄目であったが、土器町北の端の丸亀病院、浜街道沿いに広いグラウンドがあるが、そこが売りに出た。小さな大学ができる広さがあり、そこをとという話もあったが上手くいかなかった。もう1つは、クラボウの会社の跡地。ここは売りに出さなかった。今、24時間スーパーが借地であそこへ入っている。現状では大学を作るだけの用地がない。しかし、私も大学生の若い人たちが住んでくれたらと思う。私の家の近所にポリテクカレッジがある。これは職業訓練的なものであり、少人数であるが学生がいて、その方が下宿していたり、居酒屋でアルバイトをしている。大学は今はないけれども、これは常に考えていきたいと思っている。

さだまさしさんについて。5時15分の仕事終わりに、さだまさしさんの「城のある町」を流すようにした。市民の方から仕事が終わる雰囲気になると言われた。柔らかくていい歌なので、これは担当にしっかりとっておく。

(コミュニティ5)

市民会館の落成式に呼んでいただいたら士気が上がる。歌もすごくいい。さだまさしさんはPR能力があってトークがすごく上手なので、上手く利用したらいいと思う。

(市長)

一度、丸亀市民球場に来られてよかった。しっかり話をしておく。

(会長)

ありがとうございます。時間も押しているが、これだけは言うておかななくては帰れないということがあれば、願います。

(コミュニティ5)

丸亀市の総合計画は令和4年から7年度でいろいろ進められているが、特に先ほど言われたDX、デジタルトランスフォーメーションの充実をしてほしいと思っている。

ナンバー70に多様な情報発信の充実ということで、市のホームページの改善やアクセス数増加、SNSやYouTubeの充実をあげている。

それとナンバー84にDXの推進で行政手続き、先ほど市長がおっしゃられたものや、AIやRPAの導入がある。その見本が今日の四国新聞に載っていた。問い合わせに対応型AIを使ってスマホでいろいろできることが、観音寺市では4月1日からやられているということなので、こういうのをぜひ遅れをとらないように丸亀もやってほしいというお願いである。

飯山北コミュニティもDXを進めているが、このようなことが丸亀市でできれば、それに倣ってできればと思っているのでよろしく願います。

(会長)

長時間休憩もなく、市長と語る会、大変幅広いご意見をいただき有意義な意見交換ができたと思う。心より感謝を申し上げたいと思う。終わりになるが、お集まりの皆さんのますますのご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、終わりの挨拶とさせていただきます。